

年 月 日/

学校 年 組 番 なまえ

2021年11月30日付

県産メロン、米国へ

来春以降に輸出本格化

日本発「一番乗り」

生産量日本一を誇る本県産メロンについて、県は29日、初めて米国向けに輸出したと発表した。国内で生産されたメロンの米国輸出は今年8日に解禁されたばかりで、本県が「一番乗り」となった。本年産の収穫は既に終盤を迎えており数量は限られるものの、県は来年春以降の最盛期を見据えて本格的な販路開拓に乗り出す。

輸出したのは、JA常総ひかり千代川地区メロン部会のアールスメロン計30個。国内で量販店「ドン・キホーテ」を展開するパン・パシフィック・インターナショナルホールディングスが米ロサンゼルス州に出店する店舗で、1個3千円程度で販売する。米国向け輸出解禁を受け、県が各産地に対応を探ったところ、同部会が応じ、「スピード感ある輸出対応につながった」（県農産物輸出促進チーム）。メロンは24日に羽田空港から空輸し、26日から現地での販売にこぎ着けた。

これまで、米国は果実を腐敗させるウイルス侵入への警戒を理由に、日本で生産されたメロンの輸入を認めないが、農林水産省は国内産地からの要望などを踏まえ、輸出時の検査徹底など植物検疫を条件に、8日からの輸入開始で米国側と合意していた。県内では今季のメロン生産は既に終盤を迎えている。このため、県は来年産の本格的な米国輸出に向け、銚田市や下妻市、茨城町など県内の主要産地と調整を急ぐ方針。船便による輸出で輸送コストを下げることも、「1円で高く店頭で販売し生産者の利益につながる態勢を築く」（同チーム）考えだ。さらに米国本土に加え、ハワイ州などへの販路も視野に入れている。

県によると、2020年度メロン生産量は、本県が3万1600トンで日本一を誇る。19年には香港政府が一部の食品の輸入規制を緩和したことを背景に、本県のメロン輸出は年々、増加傾向にある。

同チームは「市場規模が大きく、富裕層も多い米国で販路を拡大するチャンス。これから本県産メロンをどう浸透させていくかが課題だが、オール茨城で売り込みを強めたい」と意気込みを示した。

（前島智仁）



米国ロサンゼルス州の店舗に並んだ本県産メロン（県提供）

【問1】 日本産のメロンをアメリカに輸出することができるようになったのは、いつからですか？

2021年11月8日から

【問2】 アメリカは、なぜ、これまで、日本産メロンの輸入を認めていなかったのですか？

果実を腐敗させるウイルスの侵入を警戒していたため

※検疫を条件に認められました

【問3】 アメリカに初めて輸出された日本産メロンは、茨城県産でした。どのような場所で、1個何円くらいで販売される計画ですか？

ロサンゼルス州の量販店で、1個3000円くらいで販売される計画



よ 読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね